

2008年度 第2四半期連結業績 国内機関投資家・アナリスト向けテレカンファレンス

Q&A (要旨)

日時 : 2008年11月17日 17:30~18:10

回答者: 藤方 ソニーフィナンシャルホールディングス 代表取締役副社長

嶋岡 ソニー生命 取締役

福谷 ソニー損保 執行役員

中村 ソニー銀行 取締役兼 CFO

Q&A (要旨)

Q1)プレゼンテーション資料のスライド番号12にある、10月以降のヘッジオペレーションに関して。想定元本としてどれくらいなのか、またどれくらいの位置でヘッジしているか?ヘッジポジションなどに関して教えていただけないか?機動的にマーケットが回復する局面でどのように対応できるかなどお話し願いたい。

A1) (SFH) ヘッジの水準、ボリュームなどについてはどうかご容赦願いたい。動的ヘッジで対応している。日々状況は変わるためと、ある一点の状況だけお伝えして誤解を与えてしまうことは避けたい。

Q2)ソニー銀行の自己資本比率、Tier 1比率はどれくらいであったらネット銀行として適正と考えているか。(レピュテーションも考えていると思うが。)

A2) (SFH) 国際基準では8%、国内銀行では4%などいろいろと指標はあるが、当面はTier 1で8%超は維持していきたいと考えている。銀行事業がとてもし大きくなっているようなかなか先の将来については未定。

Q3)投資環境の悪化について。ソニー生命では会計上の純資産が3月末比減少。確かにソルベンシー・マージン比率も高く TOPIX の下落影響をあまり受けないことや、危険準備金や価格変動準備金もあることなども存じているが、上場している金融機関として急激に純資産が減っていることに対して経営としてどう考えているか?

(個人的にはこの問題は御社だけの問題ではないと思うが、金融当局がどう対応するかも気にはなっている)

A3) (SFH) 法定会計上の純資産を守っていかないといけないことはおっしゃるとおりの認識をもっている。他社のことはわからないが、いざというときであっても純資産を守るための実質純資産は十分もっていると認識している。今回の金融危機を考えると、過去に投資家の方からしばしば過剰資本と指摘されることもあったがこのような環境ではそれもよかったのかもしれない。

Q4)この危機が長引いたりさらに悪化した場合は、会計基準の弾力的な運用が認められていくと期待しているか？

A4) (SFH) 個人的な意見を述べるのは難しいところ。変動利付国債の評価方法についてすでに企業会計審議会より意見が出るなどの動きもあるが、もしも業界全体の問題となっていくようであれば、行政当局も国民経済上望ましいのであればという判断になるかとは思う。

Q5)ソニー生命の新契約年換算保険料について。第1四半期、第2四半期とそれぞれでみるとややスローダウンしているのではないかと思うが原因は？ 件数は増えているが新契約高はほぼフラット、年換算保険料だと前年同期を若干下回っている模様。またこれに関連して過去10年くらいの推移を見た場合、所得環境と新契約高に一定の関係があるようにも見えるが、どのように考えているか。

A5) (生命) 新契約について年換算保険料や保険金額の増減は商品構成によって影響を受けるところがあり、ひとつの要因で申し上げるのは難しい。大きな要因としては、個人保険・個人年金保険のうち、個人保険についていえば年換算保険料は若干ではあるが前年同期を上回ってはいる。逆に変額年金については前年同期比でかなり落ち込みがあったことが要因。また、保険金額と年換算保険料の関係でいくと、保険金額が大きい割に保険料が低めである、当社主力の家族収入保険の伸びが要因としてあげられる。保険料ベースでは伸びが小さく見えることになる。

また過去10年ほどの推移については、我々は外的要因よりも内的要因が大きかったと考えている。2002年くらいから営業力強化に取り組んでおり、その成果がここ最近の安定した営業業績に結びついていると捉えている。この先の景気見込みもあるが、足元については内部では十分業績を維持できるとは考えている。

Q6)ソニー損保の通期業績予想の上方修正について。システム関連費用が予定しているほどの増加にはならなかったと言うことだが、投資計画にどのような変更があったか教えていただきたい。

A6) (損保) 上方修正について、まずは収入保険料の好調な伸びと損害率の安定が大きな要因としてある。システム関連費用についてはシステム基盤を現在再構築中であるが、そのリリースを当初2008年度中に見込んでいたが遅れる見込みである。そのため当初予定していたシステム検証費用やオペレータ研修費用などが今年度は発生しない。

Q7)IT投資に関し、カットオーバーのタイミングは来年度前半あたりを視野にしておけばよいか？

A7) (損保) 現在見直しをしている最中で、リリースの具体的な時期については精査中。確

定したら収益へのインパクトも含め、あらためてご説明する。

Q8)CB の価格について。以前は CB の対 TOPIX 感応度を開示していただいたが、その際はあまり当たらなかったという印象があった。9 月末の TOPIX、1,087 ポイントから 10 月 24 日にかけては TOPIX、806 ポイントまで落ちたが、CB の含み損は 91 億円ほどの悪化でとどまっていた。TOPIX、1,000 ポイント以下においては、CB の価格変動性はさほどではないという認識でよいか。印象を教えてください。

A8) (生命) CB の含み損益の動きや感応度については、今のこの水準では、エクイティ・オプション部分の評価がほとんどされてなくクレジットそのものの評価となっているのではないかという印象。ほとんど債券化している状況。全体の平均価格も 90 円に近いレベル。感応度はエクイティとは乖離しており、かなり下方硬直性もでてきていると思われる。

Q9)責任準備金の積み立て方式について。5 年チルメル、10 年チルメルなどの選択肢もあると思うが、積み立て方の変更は視野に入れているか？もし感触を教えてください。あればお願いしたい。

A9) (生命) こちらについては、業界全体の問題も最終的にはあろうかと思うが、少なくともソニー生命については今、そういった予定はない。

以 上